

創刊号

# 雪がた

—— 豊科病院だより ——



豊科病院広報誌 第1号  
平成17年 5月 1日 発行  
発行者 豊科病院広報文化委員会  
〒399-8205  
長野県南安曇郡豊科町豊科5777-1  
URL <http://shironishi.or.jp/to/01/htm>

## 豊科病院の理念

自他を問わず人間を愛し、慈しむ心を礎に、病める人、障害を持つ人、悩める人に常に自分の家族に接するように優しく接し、最良の医療・福祉サービスを提供し、地域の人々の要求及び個別的な要求にも応え、地域で人々が快適に生活できるような支援を行う。

## 平成十七年新年度式

このところ急に季節が移り変わり、ふと気付くと、窓に暖かい日差しが降り注ぐようになりました。モノトーンだった外の風景にも、少しずつ春の色彩が加わってきます。

4月に入ると安曇野の長い冬もようやくその終わりを告げ、爽やかな風が春の到来を感じさせる・・・そんな日に、平成十七年度の新年度式が行われました。

当日は多数の職員が出席し、式は院歌の斉唱に続いて病院長の挨拶、新入職員への辞令交付と続きました。病院長の挨拶では、新年度の抱負として、各職員が現在行っている壁の塗り替え作業等、職員が自主的に行う様々な活動について話されました。

今年度は栄養部に2人、作業療法部に1人、安曇野メディアに2人、計5人の職員が入職し、職員一同、決意も新たに、患者様へ質の高い医療サービスを行うていくことを、再確認致しました。



## 当院精神科に新しく 医師が加わりました

精神科医師 西里 吉昭



皆さんこんにちは。自己紹介をさせていただきます。昨年五月より信州人となった西里です。

私は東京生まれ、その後熊本県阿蘇山の麓へ移りました。そして小学校に上がる前に母の実家に近い静岡の大井川河口近くに転居。中学・高校は東京で大学が名古屋でした。

医師になった後、静岡県の病院に7年間勤めてから北海道に飛びました。その北海道生活を30年近くの間楽しんでからここ、信州にやってきました。

この現在の場所を、終の住み処とするかなあ…と今のところは考えております。

私は体を動かすのが好きで、小さい頃から外で遊びまわり熊本の小さな川で友達と遊んで泳ぎを覚えました。

熊本では単発の飛行機が煙を吐きながら落ちていくのを見たことがあります…ハイ、私は戦前派です。小六の頃、静岡では焼津の近くのせいもあり、ヒキニでの水爆実験の死の灰を浴びた第5福竜丸の船員達も身近に見ました。

小さい頃から野球・水泳に興じ大学ではテニス、卒業してからは登山が加わりました。更にスキーです。

一方では小六の理科の時間で鉱石ラジオを作ったのがきっかけでラジオ少年となり、やがてはアマチュア無線になり、現在に続いていきます。

実は、北海道に行く時は「ちよっと1〜2年スキーを楽しんで来るか」という軽い気持ちだったのです。それが向こうの生活がすっかり気に入ってしまい、「気が付いたら30年近くでした。」

私は、北海道に行くまでは、野菜類は八百屋で買うものと決めこんでいました。

それが、春や秋になると北海道の近所の皆さんは盛んに山に入ってはキノコとか、フキとか沢山採ってきてその味を楽しんでる。月曜日の朝には、職場中でドコに行き、どれだけ収穫があったなどと話に花が咲く。これは私にとって強烈なパンチでした。

それからは私もワラビやフキ、山ウド等良く採りに行きました。門前の小僧です。

その内アマチュア無線の免許を取り、全長800mのアンテナを張ったりして交信を楽しみました。もっぱら「トン・ツー」「モールス信号」でやっていました。冬はスキーです。5時に仕事を終えるとすぐに3分の道を家に帰って夕飯。車で10分走って地元のスキー場に行って6時半頃から8時半頃までノンストップ。殆ど毎日でした。

一昨年の冬は最後（となるであろう）富良野のスキーをたっぷり楽しんできました。親子5人のトレーンで、すっ飛ばすのも痛快です。

グライダーを始めたのは昭和61年。

最初は山登りと半々に分けていた休日も、3ヶ月もしないうちに全部グライダーに使うようになってしまいました。自宅から20kmほど離れた滝川市という所に、日本でも有数の滑空場があり、そのメンバーとなりました。

やがて一人で飛べるようになると、免許（航空法では「航空機操縦技能証明」と言います）を取得し、一人乗りの自分の機体を買ひ、といった具合で両足をどっぴりと泥沼に付けていきました。

100km、200km、300km、400km…と基地を離れて山の中を飛ぶ。5月や6月の残雪の山、その上を飛ぶのはまさに極楽トンボです。

上昇気流を失い、帰れなくなって場外着陸をしたことがこれまで6回あります。牧草地、畑、他の飛行場などです。この内の一回は滝川から40km離れた富良野の、前日降った大雨の水がまだたっぴりと残っている水田でした。

その時、着陸した機体から降り、ドロドロの水田を歩いてすぐ脇の道に出ると、そこには皆さんお馴染みの「白黒の車」が回転灯を点けて停まっておりました。

「どうしたのですか、何かこの辺であったのですか？」とその乗組員に尋ねる私。

と、その乗組員曰く「あんだだよ。あんだの事だよ。飛行機が落ちたという連絡が本署に入り、たまたま近くを走っていたから来たんだよ。」

実は航空法上、グライダーは航空機の中で唯一、どこに着陸しても構わないことになっています。

人を傷つけたり、物損を与えない限り事故にはならない訳です。

幸いに、その乗務員の中の一人がパラグライ

ダーをやっており、航空法の知識があったので私の説明に対する理解が早かった。

しかし、グライダーを分解してトレーラーに積み込んで（仲間にトレーラーを曳いて走ってきて貰いました）滝川に戻るともう暗くなっていました。そこに東京の運輸省航空局からの問い合わせの電話が待ち構えておりました。「本署」から電話が行ったらしいです。

さて、こちらに来てまだ10日もしない、5月30日にはもう長野市内、千曲川の河川敷にある滑空場に私は姿を現しておりました。飛び始めると同時に、そこで仕入れた情報を元にしてアウト・ランディング場の下見にも精を出しました。佐久、大町、飯田、富士山麓等々、合計16箇所を見て回りました。長距離飛行を安全に行うには、こうした場所の下見は必須なのです。

まだ、他にもやらねばならないことがあります。早く自分の家を持って（アパート暮らしではなく）アマチュア無線用の大きなアンテナを建てたい。長年の夢であった月面反射通信（EME）をやりたい。

その為には、家の周囲は空いている方が良いでしょう。

「長野に来たら一緒に山へ登ろうね。」と子供達に前々から誘われておりましたが、これはまだ実現しておりません。

私には気になるコースが一つあります。それは、西穂く奥穂のコースをまた歩いていない、ということ。

さし当たっては最も行ってみたい所です。

北海道時代に、よく若い職員に言ってきたことがあります。

「自分が、自分の生活を楽しめなくて、自分の将来に希望を持ってなくて、自分の将来が輝いていなくて、なんで患者さんに喜びを与え将来の希望を持たせる事が出来る？」って。

医療現場は技術を媒体とした接触以上に、人と人の心の接触が大切だと思っております。

何の形でも良いから、自分を常に挑戦者の立場に置く。多様な価値観を持って、自分が自分を肯定出来る人間。そういう人は心が自由になれるし、他人を許せる。そして初めて病氣と戦っている人の気持ちを汲み取れる…

と、こんな屁理屈をこねて私は遊びまわっております。

また、豊科病院全体にそんな雰囲気があれば良いな—と思っております。

皆さん、輝きましよう！

## 花壇が出来ました

当院駐車場のコーナーに、可愛らしい花壇がお目見えしております。

この花壇は院内のサービスマン委員会、CS委員会を中心となり、職員が自主的に作り上げたものです。

昨年、まず土を耕すことから始めて、少しずつ作り上げてきた花壇は、今年に入ると一気にその華やかさを増してきました。

患者様にもご好評を頂いております。

これからも益々充実していきますので、皆様ご期待下さい！



今回の4コマ。（連載予定）



内科外来 医師担当表

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	信州大学 第一内科	関 東和 病院長	信州大学 第一内科	関 東和 病院長	関 東和 病院長	関 東和 病院長  信州大学 第一内科
午後	信州大学 第一内科	休 診	信州大学 第一内科	休 診	休 診	休 診
<p>◎受付時間 月・水曜日 午前8時～午後2時30分(正午以降の受付は午後の診療となります) 火・木・金・土曜日 午前8時～午前11時30分</p> <p>◎診療時間 月・水曜日 午前9時～正午、午後1時30分～午後3時 火・木・金・土曜日 午前9時～正午</p> <p>※ 日祝祭日は休診となります</p>						

精神科外来 医師担当表

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	中澤 知遠 医師	西里 吉昭 医師	五味 洵 満徳 医師	西里 吉昭 医師	中澤 知遠 医師	五味 洵 満徳 医師
<p>◎受付時間 午前8時～午前12時</p> <p>◎診療時間 午前9時～終了まで</p> <p>※ 日祝祭日は休診となります</p>						

平成17年 6月現在



～・ 編集後記 ・～

豊科病院として、初めての本格的な広報誌となる、豊科病院だより「雪がた」。ご覧になっていかがでしたでしょうか？

編集やレイアウトなど、まだまだ拙くお見苦しい点もかなりあったことと思いますが、これから紙面を充実させていく所存です。

どうぞ、宜しく願い致します。

また、今回記事をお願いした西里先生にお礼を申し上げますと共に、掲載まで長期間がかかってしまったことを深くお詫び致します。

最後までお読み下さり、ありがとうございました。

※表題「雪がた」について 春から夏にかけて北アルプスでは様々な雪形が見られ、当院からは常念岳の常念坊や、蝶ヶ岳の蝶などの雪形を正面に望むことが出来ます。雪形が季節の変化に合わせて融けるように、患者様の病も融ける・・・表題にはそんな願いが込められています。